

日本赤十字社における気候変動対応基本方針

気候変動は人道の危機

激甚化する水害や猛暑など、気候変動の影響は多くの人々の脅威となっています
私たちは、150年の長きにわたり
苦しんでいる人を救うことを目的として活動を続けてきた人道支援団体として
現在、そして未来にわたり、人間のいのちと健康、尊厳を脅かす
気候変動がもたらす様々な脅威に対し
以下の取組みを推進します

救う (気象災害による被災者の支援)

- ・気候変動により激甚化・頻発化する気象災害に対し、日本赤十字社の総力を挙げて被災者の救護・支援活動を実践します
- ・救護・支援活動を迅速かつ確実に行うため、日ごろより必要な救護体制と準備を整えます
- ・熱中症や気候変動による感染症の拡大など、保健上のリスクから人々を守ります

そなえる (気候変動による被害の防止・軽減)

- ・気象災害からいのちを守る「防災・減災」の知識を、教育現場や講習・セミナー会場など、あらゆる赤十字運動の場において普及、推進します
- ・地域コミュニティにおける気象災害への備えを強化します
- ・障害者や高齢者などの気候変動による被害を受けやすい人々に対する備えを強化します

とめる (温室効果ガスの排出量削減などへの取組み)

- ・気候変動の悪化を防止することは、人間のいのちを守ることに直結します。そのため、温室効果ガスの削減やリサイクル・リユースの推進など、環境に配慮した取組みについて具体的目標を掲げて実践します
- ・自身が行う事業活動が環境に与える影響を測定し、常に透明性を持って報告します

広める・つなげる (活動の輪を広げる)

- ・気候変動・環境問題が人間のいのちと健康、尊厳、そして生活を脅かすものであることを、赤十字の行う様々な活動の機会を捉えて発信することで、気候変動・環境問題への意識の向上をはかり、個人や組織レベルでの行動を促進します
- ・政府、自治体をはじめ、他の企業、団体と共に行動の輪を広げます
- ・国際赤十字の一員として、各国の赤十字・赤新月社と連携し、世界における気候変動の課題に取り組みます

考える (PDCAサイクルを回す)

- ・国際赤十字や国内外の研究機関、組織等と連携し、常に最新の知見を収集・分析することで、日本赤十字社に求められる役割や活動に対する改善を継続します